

INSTITUTE
FOR GLOBAL
HEALTH POLICY
RESEARCH



年次報告書

2018 - 2019

iGHP のミッション

国立国際医療研究センター（NCGM）国際医療協力局に設置されたグローバルヘルス政策研究センター（iGHP）は、次のミッションに基づき、グローバルヘルスのさらなる発展を目指して活動しています。

グローバルヘルス政策におけるエビデンスの構築

iGHP の重要なミッションの一つはグローバルヘルス政策に資する研究の推進及び、国際保健医療協力に関する研究です。私たちは様々な地域における支援プロジェクトと密接に連携・協力し、これらのプロジェクトの効果と効率を高めることを目標にしています。また支援プロジェクトから集積される知見の質と量を向上させ、当該国の保健システムの改善や、それに伴う国際保健活動の改善を推進します。

ヘルスシステムに関する研究、保健医療分野の研究

iGHP は、ヘルスシステムに関する研究、NCGM 各部署と連携し NCGM 海外拠点を活用した国際保健医療協力の研究、国内外との研究機関と保健医療分野の共同研究を推進しています。システムイノベーションや外交の経験・技術を駆使し、国際保健活動の現場における効率的かつ、正確な情報収集と集積の手段を提供します。また集積した情報・研究結果を活かせる研究デザインに関するコンサルテーションを提供します。

グローバルヘルス政策研究に携わる実践的人材の育成

開発途上国に派遣された専門家が中心となって行うヘルスシステムに関する研究や、開発途上国における保健医療分野の研究の質を高めつつ、さらなる実践的な研究を推進します。そして、このような革新的な研究アプローチに関連した知見を集積することで、日本の将来のグローバルヘルスリーダー・国際的政策研究人材の育成に寄与します。

日本へ、そして世界へ向けての政策提言

官学民の研究プラットフォームの確立や、国や自治体、世界へ向けた保健医療政策提言も iGHP の重要なミッションの一つです。国際保健プロジェクトにおける体系的なデータ収集と評価を支える ICT プラットフォームを構築・運用し、情報収集と施策評価のシステムづくりをすることで、諸外国、地方自治体、地域社会、そして保健医療機関が効率の良い政策やヘルスケアシステムを立案することができます。また ICT プラットフォームや世界に広がる国際ネットワークを活用することで、iGHP のエビデンスに基づくわが国の政策提言機能の向上にも資することが可能になります。

インパクト

政策インパクト

我が国のグローバルヘルスに直結する研究調査活動

アカデミック・インパクト

インパクトファクターの高い研究を推進

社会的インパクト

公開シンポジウム、セミナーやメディアを通じた情報発信、政策提言、官民連携などを積極的に推進

研究活動一覽

グローバルヘルス政策研究

- ・ 国連総会結核ハイレベル会議に向けた官民政策インプットのためのプラットフォーム
- ・ G20 に向けたグローバルヘルス外交に関する国際比較研究（日独政府）
- ・ アジア健康構想のための日本の協力戦略強化研究（日本政府）

国内及び海外機関との共同研究・人材育成

- ・ 医療ビッグデータを活用した政策支援（タイ政府、タイ国民医療保障機構（NHSO））
- ・ 日本の保健分野 ODA の抛出分析（ビル&メリンダ・ゲイツ財団、外務省、国際協力機構（JICA）など）
- ・ 未来のヘルスシステム研究（スウェーデン・SIGHT）
- ・ 難民・移民の健康を支援するデータプラットフォームの構築及び研究（国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA））
- ・ 感染症や生活習慣病および保健医療システムに関するデータベースの構築と活用
- ・ 診療レジストリ研究（台湾）
- ・ 抗菌剤耐性政策研究（香港大学、NCGM-AMR リファレンスセンター）
- ・ 研究支援セミナーや実践ワークショップの開催

NCGM 内の連携強化

- ・ 医療技術等国際展開推進事業の評価支援
- ・ ASEAN の相互承認制度に関する研究
- ・ 移住と結核研究（NCGM 呼吸器内科、国際診療部）
- ・ 実務者向けセミナーの開催



主要研究概要

日本の保健分野の ODA を可視化した データプラットフォームの構築

当センターはビル & メリンダ・ゲイツ財団の助成の下、外務省や JICA よりデータ提供の協力をいただき、日本の政府開発援助 (ODA) の保健分野の資金の流れや貢献を日本で初めて可視化したデータプラットフォーム「Japan Tracker」を構築しました。本データプラットフォームでは、過去 5 年間の保健分野 ODA 資金が、どの地域に、どのような保健詳細分野に、そしてどの程度支出されているのかを定量的にたどることが可能です。2018 年 9 日に開催されたビル・ゲイツ氏来日会合 (会場：衆議院議員会館) にて、ビル・ゲイツ氏をはじめとするビル & メリンダ・ゲイツ財団や、国会議員の方々に向けて、iGHP の渋谷センター長が「Japan Tracker」を紹介しました。ODA の拠出動向をデータから読み解き、日本の国際保健戦略の検討に資するものとして、会場で注目を集めました。



シンクタンク機能としての専門家会合と政策研究

感染症で世界第一位の死因となっている結核が 2018 年 9 月に初めて国際連合総会 (以下、UNGA) ハイレベル会合の議題として取り上げられ、日本が共同ファシリテーターを務めました。本会合の準備プロセスを含め日本が効果的かつ戦略的に進められるよう、iGHP は東京大学国際保健政策学教室 (GHP) と共同で、国内の幅広い関係者から知見や情報を収集し、日本代表団へ有益な情報提供ができるよう取り組みました。その活動の一環として、有識者会合及び公開セミナーを 2018 年 4 月と 5 月にかけて開催しました。セミナーでは、官民連携における研究・開発やイノベーションの促進をはじめ画期的なグッドプラクティスや新薬承認プロセスの簡素化の課題、また UNGA ハイレベル会合で各国首脳からの結核終息へのコミットメントの期待に関して多くの意見が交わされました。当日収集した意見等は iGHP と GHP でまとめ、日本政府へ参考意見として提出しました。また、今回得られた知見等を含めて世界の結核対策の現状分析を行い、国際学術誌で発表しました。

タイ国民医療保障機構 (NHSO) とのビッグデータ活用研究

2017 年に JICA 技術協力プロジェクト「グローバルヘルスとユニバーサルヘルスカバレッジ (UHC) のためのパートナーシッププロジェクト」からタイ国民医療保障機構 (以下、NHSO) と当センターの間で共同研究チームが発足しました。この研究関係をさらに促進させるため、両機関は 2018 年 6 月に包括研究協定 (MOU) を締結しました。現在、タイの糖尿病および喘息患者の医療データを使用した政策研究を進めています。今後とも両機関は医療政策研究を推進し、両国および世界へ向けて新たな知見を発信していく予定です。

難民・移民の健康を支援するデータプラットフォームの構築及び研究

国際連合パレスチナ難民救済事業機関 (UNRWA) と協働し、難民を対象とした健康支援データプラットフォームの基盤構築を進めています。さらには、モバイル端末からのコミュニケーションツールを活用し、本人と医療従事者双方のコミュニケーションが促進されるシステム構築と実装に向けて取り組んでいます。一連の開発により、さらに効果的な医療サービスの提供と、難民一人一人が自らの健康状態を把握し、自発的に健康管理が促進できるシステム作りに取り組んでいます。

ワークショップ・セミナー

ワークショップ

2018.09.27-28

システマティックレビュー& メタアナリシス・ワークショップ

iGHP/ 東京大学国際保健政策学教室 共催

講師：University of Southern Queensland 教授
Shahjahan Khan 氏
東京大学大学院医学系研究科 国際保健政策学教室 特任助教
Mizanur Rahman 氏



2018.12.03-05

グローバル・ヘルス・ ディプロマシー・ワークショップ

東京大学国際保健政策学教室 /
iGHP 及びグローバルヘルス人材戦略センター、NCGM 共催
リソースパーソン所属機関：タイ保健省 / タイ外務省 / タイ マヒドン大学 /
中国 北京大学 / 厚生労働省 / JICA

iGHP セミナー

効果的な国連総会結核ハイレベル会合に向けて

2018.05.10

共催：iGHP / 東京大学医学系大学院国際保健政策学教室
講演者：鷺見学氏 外務省国際保健政策室室長 / 江副聡氏 国際連合日本政府代表部参事官 /
森亨氏 ストップ結核パートナーシップ日本代表理事 / 山梨啓友氏 国境なき医師団医師 /
川崎昌則氏 大塚製薬株式会社 医薬品事業部抗結核プロジェクト次長 /
鹿角契氏 グローバルヘルス技術振興基金(GHIT)投資戦略兼ガバメント・リレーションズ シニアディレクター

ヘルス ICT 先進国・台湾の苦悩～法と制度の狭間から～

2018.07.30

講演者：藤田卓仙 iGHP 特任研究員 / Hsing-An Chen 氏 輔仁大学法律学部 /
Tzu-Hsuen Yuan 氏 国立台湾大学公共衛生学院職業医学と工業衛生研究所 /
Raymond N. Kuo 氏 国立台湾大学公共衛生学院健康政策と管理研究所

Google のヘルス革命、～クラウドと AI の活用とその課題～

2018.09.15

講演者：Arie Meir 氏 グーグル社クラウド部プロダクトマネージャー

高齢社会を支える訪問看護事業の将来展望 ～各国の Home-based Care の現況と日本からの挑戦～

2018.10.05

講演者：山本遼太郎氏 ソフィアメディ株式会社代表取締役

医師なし自動診断時代の幕開け？ ～革新的な医療用 AI 装置と今後の可能性～

2018.10.22

講演者：Michael Abramoff 氏 IDx 創業者兼 CEO / 大上二三雄氏 株式会社トプコンアイケア事業 /
宇佐美佐見潮氏 アマゾンウェブサービスジャパン株式会社 パブリックセクター統括本部長

ICT の変革が実現するヘルスケア・新時代 ～2025 年大阪万博：世界に向けて発信すべきライフイノベーション、未来社会の姿とは何か？～

2018.12.12

主催：殿町リサーチコンプレックス推進プログラム
協力：世界経済会議 第四次産業革命センター 日本支部 /iGHP
講演者：Madis Tiik 氏 タリン工科大学 / 船橋俊一氏 株式会社大林組大阪支店建築事業部プロジェクト推進第一部長

特別講演・シンポジウム

2018.09.06

第2回 日独グローバルヘルス会議： グローバルヘルスにおけるドイツと日本の役割 ～ G20 ハンブルグから G20 大阪へ～



iGHP は、ジュネーブ国際開発大学院グローバルヘルス・センター (GI/GHC) 及びベルリン日独センター (JDZB) との共催により、第2回日独グローバルヘルス会議を開催しました。本会議は、2017年G20ハンブルグサミットで取り上げられたグローバルヘルスの話題をレビューしG20を構成する新興ドナー国によるG20サミットへの期待を明らかにすること、そして日独がその実現プロセスをサポートする方法などについて議論することを目的にしました。

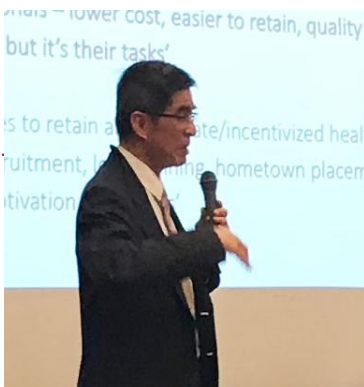


第1部では、日本とドイツ政府から外交と保健の担当官 (Mr. Tobias Bergner, Federal Foreign Office, Germany ; 池田千絵子、厚生労働省総括審議官 国際保健担当 ; 紀谷昌彦、外務省 中東アフリカ局アフリカ部・国際協力局参事官、TICAD 担当大使) らを迎え、G 20 ハンブルグ・サミットと保健大臣会合のレビュー及び今後の課題についてパネルディスカッションを行いました。第2部では、香港、韓国、インドネシア、アルゼンチンの演者が登壇しグローバルヘルスにおける新興経済国の役割を発表しました。ここでは、UHC と栄養問題を関連付けるマルチセクターシステム、高齢化社会や移民の健康等の保健課題について機能できる能力を結び付けるメカニズムの創設等、各国が抱える課題や提言などについて発言がありました。第3部は、「G 20 大阪サミットへ向けて健康を政治的優先課題にするために～日本とドイツが協働できることとは?～」と題し、武見敬三参議院議員らによるスピーチセッションが展開されました。フロアからは、日独がデリバリーメカニズム、累進課税及び累進保険料の革新に苦しむ国々を援助する必要性等、様々な意見が活発に寄せられました。最後に、本会議で座長を勤めた Ilona Kickbusch 教授より、2030年より前にUHCが達成されるよう、日独が各地域毎に1か国を対象に協力して援助する提案などが示唆されました。



2018.12.04

UHC Day 2018 年記念イベント： 「誰も取り残されない医療」を目指して



世界では 2030 年までにユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC)、「全ての人が適切な予防、治療、リハビリ等の保健医療サービスを、必要な時に支払い可能な費用で受けられる状態」すなわち「誰も取り残されない医療」の達成が大きな目標として掲げられています。その UHC を記念して国際連合が定めた 12 月 12 日の国際 UHC デーを日本からも推進するため、iGHP は他機関と共同で記念イベントを 2018 年 12 月に開催し、100 名以上の方にご来場いただきました。

本イベントではタイの Dr. Suwit Wibulpolprasert (Vice Chair, International Health Policy Program Foundation) をはじめとするグローバルヘルスで活躍する専門家をお招きしました。パネルディスカッションでは、「誰も取り残されない医療」の現在、そして経済状況や人種、居住地域などによらず、誰もが公平な医療を受けられ健康格差のない社会を目指す将来像について議論が交わされました。

Dr. Suwit は低所得国のタイがいかにプライマリーヘルスケアに焦点を当てて UHC を達成できたのか、その成功の要因と道りを解説。また、「健康」は保健医療分野だけの問題ではなく、人々の生活と幸福に関するものである点や、UHC はインクルーシブに取り組む必要があると強調されました。また、中国や日本からの他のスピーカーからは、各国の政策レベルの話だけでなく地域医療や臨床の現場で必要とされている変化や、社会として一人一人の意識が変わる必要性があることなどが語られ、「誰も取り残されない医療」を実現するための鍵についても言及されました。

研究業績

原著論文（国際誌）

Rahman MS, Rahman MM, Gilmour S, Swe KT, Abe SK, [Shibuya K](#). Trends in, and projections of, indicators of universal health coverage in Bangladesh, 1995–2030: a Bayesian analysis of population-based household data. *Lancet Global Health*. 2018 Jan; 6: e84-94.

Swe KT, Rahman MM, Rahman MS, Saito E, Abe SK, Gilmour S, [Shibuya K](#). Cost and economic burden of illness over 15 years in Nepal: A comparative analysis. *PLoS One*. 2018 Apr 4; 13(4): e0194564.

Yoshida T, [Miyata H](#), Konno H, Kumamaru H, Tangoku A, Furukita Y, Hirahara N, Wakabayashi G, Gotoh M, Mori M. Risk assessment of morbidities after right hemicolectomy based on the National Clinical Database in Japan. *Ann Gastroenterol Surg*. 2018 Apr 16; 2(3): 220-230.

Mizushima T, Yamamoto H, Marubashi S, Kamiya K, Wakabayashi G, [Miyata H](#), Seto Y, Doki Y, Mori M. Validity and significance of 30-day mortality rate as a quality indicator for gastrointestinal cancer surgeries. *Ann Gastroenterol Surg*. 2018 Apr 16; 2(3): 231-240.

Komaki H, Nagata T, Saito T, Masuda S, Takeshita E, Sasaki M, [Tachimori H](#), Nakamura H, Aoki Y, Takeda S. Systemic administration of the antisense oligonucleotide NS-065/NCNP-01 for skipping of exon 53 in patients with Duchenne muscular dystrophy. *Sci Transl Med*. 2018 Apr 18; 10(437).

Xu Q, Fukasawa M, Kawakami N, Baba T, Sakata K, Suzuki R, Tomita H, Nemoto H, Yasumura S, Yabe H, Horikoshi N, Umeda M, Suzuki Y, Shimoda H, [Tachimori H](#), Takeshima T, Bromet EJ. Cumulative incidence of suicidal ideation and associated factors among adults living in temporary housing during the three years after the Great East Japan Earthquake. *Affect Disord*. 2018 May; 232: 1-8.

Miyairi T, [Miyata H](#), Chiba K, Nishimaki H, Ogawa Y, Motomura N, Takamoto S; Japan Adult Cardiovascular Database Organization. Influence of timing after thoracic endovascular aortic repair for acute type b aortic dissection. *Ann Thorac Surg*. 2018 May; 105(5): 1392-1396.

Sakamoto H, Ezoe S, Hara K, Hinoshita E, Sekitani Y, Abe K, Inada H, Kato T, Komada K, Miyakawa M, Yamaya H, Yamamoto N, Abe SK, [Shibuya K](#). The G7 presidency and universal health coverage, Japan's contribution. *Bull World Health Organ*. 2018 May 1;96(5):355-359.

Takiyama H, Ozawa T, Ishihara S, Fujishiro M, Shichijo S, [Nomura S](#), Miura M, Tada T. Automatic anatomical classification of esophagogastroduodenoscopy images using deep convolutional neural networks. *Sci Rep*. 2018 May 14; 8(1): 7497.

Etoh T, Honda M, Kumamaru H, [Miyata H](#), Yoshida K, Koderia Y, Kakeji Y, Inomata M, Konno H, Seto Y, Kitano S, Hiki N. Morbidity and mortality from a propensity score-matched, prospective cohort study of laparoscopic versus open total gastrectomy for gastric cancer: data from a nationwide web-based database. *Surg Endosc*. 2018 Jun; 32(6): 2766-2773.

Okada M, Otaga M, Tsutsui T, [Tachimori H](#), Kitamura S, Higuchi S, Mishima K. Association of sleep with emotional and behavioral problems among abused children and adolescents admitted to residential care facilities in Japan. *PLoS One*. 2018 Jun 1; 13(6): e0198123.

Handa N, Kumamaru H, Torikai K, Kohsaka S, Takayama M, Kobayashi J, Ogawa H, Shirato H, Ishii K, Koike K, Yokoyama Y, [Miyata H](#), Motomura N, Sawa Y; Japanese TAVR registry participants. learning curve for transcatheter aortic valve implantation under a controlled introduction system - initial analysis of a Japanese nationwide registry. *Circ J*. 2018 Jun 25; 82(7): 1951-1958.

Minakawa M, Fukuda I, [Miyata H](#), Motomura N, Takamoto S, Taniguchi S, Daitoku K, Kondo N; Japan Cardiovascular Surgery Database Organization. Outcomes of pulmonary embolectomy for acute pulmonary embolism. *Circ J*. 2018 Jul 25; 82(8): 2184-2190.

[Nomura S](#)#, [Shimada Y](#)#, Ozaki A, Higuchi A, Hori A, Sonoda Y, Yamamoto K, Yoshida I, Tsubokura M. Balancing the risk of the evacuation and sheltering-in-place options: a survival study following Japan's 2011 Fukushima nuclear incident. *BMJ Open*. 2018 Jul 28; 8(7): e021482. #Authors contributed equally to this work and share co-first authorship.

- Nishi A, Singkham P, Takasaki Y, Ichikawa M, Chadbunchachai W, [Shibuya K](#), Tanasugarn C. Motorcycle helmet use to reduce road traffic deaths in Thailand. *Bull World Health Organ*. 2018 Aug 1; 96(8): 514-514A.
- Stickley A, [Tachimori H](#), Inoue Y, Shinkai T, Yoshimura R, Nakamura J, Morita G, Nishii S, Tokutsu Y, Otsuka Y, Egashira K, Inoue M, Kubo T, Tesen H, Takashima N, Tominaga H, Koyanagi A, Kamio Y. Attention-deficit/hyperactivity disorder symptoms and suicidal behavior in adult psychiatric outpatients. *Psychiatry Clin Neurosci*. 2018 Sep; 72(9): 713-722.
- Otsuki S, Saito E, Sawada N, Abe SK, Hidaka A, Yamaji T, Shimazu T, Goto A, Iwasaki M, Iso H, Mizoue T, [Shibuya K](#), Inoue M, Tsugane S; JPHC Study Group. Female reproductive factors and risk of all-cause and cause-specific mortality among women: The Japan Public Health Center-based Prospective Study (JPHC study). *Ann Epidemiol*. 2018 Sep; 28(9): 597-604. e6.
- Ueki C, [Miyata H](#), Motomura N, Sakata R, Sakaguchi G, Akimoto T, Takamoto S; Japan Cardiovascular Surgery Database. Off-pump technique reduces surgical mortality after elective coronary artery bypass grafting in patients with preoperative renal failure. *J Thorac Cardiovasc Surg*. 2018 Sep; 156(3): 976-983.
- Han SM, Rahman MM, Rahman MS, Swe KT, Palmer M, Sakamoto H, [Nomura S](#), [Shibuya K](#). Progress towards universal health coverage in Myanmar: a national and subnational assessment. *Lancet Glob Health*. 2018 Sep; 6(9): e989-e997.
- Kuno T, Numasawa Y, Sawano M, Katsuki T, Kodaira M, Ueda I, Suzuki M, Noma S, Negishi K, Ishikawa S, [Miyata H](#), Fukuda K, Kohsaka S. Effects of body habitus on contrast-induced acute kidney injury after percutaneous coronary intervention. *PLoS One*. 2018 Sep 13;13(9): e0203352.
- Hiraide T, Sawano M, Shiraishi Y, Ueda I, Numasawa Y, Noma S, Negishi K, Ohki T, Yuasa S, Hayashida K, [Miyata H](#), Fukuda K, Kohsaka S. Impact of catheter-induced iatrogenic coronary artery dissection with or without postprocedural flow impairment: A report from a Japanese multicenter percutaneous coronary intervention registry. *PLoS One*. 2018 Sep 28;13(9): e0204333.
- Ayabe N, Okajima I, Nakajima S, Inoue Y, Watanabe N, Yamadera W, Uchimura N, [Tachimori H](#), Kamei Y, Mishima K. Effectiveness of cognitive behavioral therapy for pharmacotherapy-resistant chronic insomnia: a multi-center randomized controlled trial in Japan. *Sleep Med*. 2018 Oct; 50: 105-112.
- Yamamoto K, Ozaki A, [Nomura S](#), Senoo Y, Yoshida I, Maeda Y, Ohnishi M, Tanimoto T, M K. Bibliometric study of obstetrics articles published in the *Journal of the American Medical Association*, 1997-2016. *Cureus* 2018 Oct 13; 10(10): e3448.
- Takeshita E, Komaki H, [Tachimori H](#), Miyoshi K, Yamamiya I, Shimizu-Motohashi Y, Ishiyama A, Saito T, Nakagawa E, Sugai K, Sasaki M. Urinary prostaglandin metabolites as Duchenne muscular dystrophy progression markers. *Brain Dev*. 2018 Nov; 40(10): 918-925.
- Kumamaru H, Lee MP, Choudhry NK, Dong YH, Krumme AA, Khan N, Brill G, Kohsaka S, [Miyata H](#), Schneeweiss S, Gagne JJ. Using previous medication adherence to predict future adherence. *J Manag Care Spec Pharm*. 2018 Nov; 24(11): 1146-1155.
- Saito A, Kumamaru H, Ono M, [Miyata H](#), Motomura N. Propensity-matched analysis of a side-clamp versus an anastomosis assist device in cases of isolated coronary artery bypass grafting. *Eur J Cardiothorac Surg*. 2018 Nov 1; 54(5): 889-895.
- Kanaji S, Takahashi A, [Miyata H](#), Marubashi S, Kakeji Y, Konno H, Gotoh M, Seto Y. Initial verification of data from a clinical database of gastroenterological surgery in Japan. *Surg Today*. 2018 Nov 7.
- [Nomura S](#), Murakami M. Public health preparedness for and response to nuclear disasters: an editorial. *Int J Environ Res Public Health*. 2018 Nov 8; 15(11).
- Niikura R, Yamada A, Fujishiro M, Tanaka K, Matsuda K, Saito Y, Ohtsuka K, Oda I, Katada C, Kato M, Kida M, Kobayashi K, Hoteya S, Horimatsu T, Kodashima S, Matsuda T, Muto M, Yamamoto H, Ryozaawa S, Iwakiri R, Kutsumi H, [Miyata H](#), Kato M, Haruma K, Fujimoto K, Uemura N, Kaminishi M, Shinozaki T, Tajiri H, Koike K. The effects of direct oral anticoagulants, warfarin, aspirin and thienopyridine on the performance of immunochemical, faecal, occult blood tests. *Digestion*. 2018 Nov 8:1-10.
- GBD 2017 Mortality Collaborators. Global, regional, and national age-sex-specific mortality and life expectancy, 1950-2017: a systematic analysis for the Global Burden of Disease Study 2017. *Lancet*. 2018 Nov 10; 392(10159): 1684-735.
- GBD 2017 Causes of Death Collaborators. Global, regional, and national age-sex-specific mortality for 282 causes

- of death in 195 countries and territories, 1980-2017: a systematic analysis for the Global Burden of Disease Study 2017. *Lancet*. 2018 Nov 10; 392(10159): 1736-88.
- GBD 2017 Disease and Injury Incidence and Prevalence Collaborators. Global, regional, and national incidence, prevalence, and years lived with disability for 354 diseases and injuries for 195 countries and territories, 1990-2017: a systematic analysis for the Global Burden of Disease Study 2017. *Lancet*. 2018 Nov 10; 392(10159): 1789-858.
- GBD 2017 DALYs and HALE Collaborators. Global, regional, and national disability-adjusted life-years (DALYs) for 359 diseases and injuries and healthy life expectancy (HALE) for 195 countries and territories, 1990-2017: a systematic analysis for the Global Burden of Disease Study 2017. *Lancet*. 2018 Nov 10; 392(10159): 1859-922.
- GBD 2017 Risk Factor Collaborators. Global, regional, and national comparative risk assessment of 84 behavioural, environmental and occupational, and metabolic risks or clusters of risks for 195 countries and territories, 1990-2017: a systematic analysis for the Global Burden of Disease Study 2017. *Lancet*. 2018 Nov 10; 392(10159): 1923-94.
- GBD Population and Fertility Collaborators. Population and fertility by age and sex for 195 countries and territories, 1950-2017: a systematic analysis for the Global Burden of Disease Study 2017. *Lancet*. 2018 Nov 10; 392(10159): 1995-2051.
- GBD 2017 SDG Collaborators. Measuring progress from 1990 to 2017 and projecting attainment to 2030 of the health-related Sustainable Development Goals for 195 countries and territories: a systematic analysis for the Global Burden of Disease Study 2017. *Lancet*. 2018 Nov 10; 392(10159): 2091-2138.
- Sakamoto H, Ezoe S, Hara K, Sekitani Y, Abe K, Inada H, Kato T, Komada K, Miyakawa M, Hinoshita E, Yamaya H, Yamamoto N, Abe SK, [Shibuya K](#). Japan's contribution to making global health architecture a top political agenda by leveraging the G7 presidency. *J Glob Health*. 2018 Dec; 8(2): 020313.
- Shoji S, Kohsaka S, Kumamaru H, Sawano M, Shiraishi Y, Ueda I, Noma S, Suzuki M, Numasawa Y, Hayashida K, Yuasa S, [Miyata H](#), Fukuda K. Stroke after percutaneous coronary intervention in the era of transradial intervention. *Circ Cardiovasc Interv*. 2018 Dec; 11(12): e006761.
- Sugimoto K, Hirata Y, Hirahara N, [Miyata H](#), Suzuki T, Murakami A, Miyaji K, Takamoto S. Mid-term result of atrioventricular valve replacement in patients with a single ventricle. *Interact Cardiovasc Thorac Surg*. 2018 Dec 1; 27(6): 895-900.
- Ishikawa H, [Tachimori H](#), Takeshima T, Umeda M, Miyamoto K, Shimoda H, Baba T, Kawakami N. Prevalence, treatment, and the correlates of common mental disorders in the mid 2010's in Japan: The results of the world mental health Japan 2nd survey. *J Affect Disord*. 2018 Dec 1; 241: 554-562.
- Katada C, Horimatsu T, Muto M, Tanaka K, Matsuda K, Fujishiro M, Saito Y, Ohtsuka K, Oda I, Kato M, Kida M, Kobayashi K, Hoteya S, Kodashima S, Matsuda T, Yamamoto H, Ryozaawa S, Iwakiri R, Kutsumi H, [Miyata H](#), Kato M, Haruma K, Fujimoto K, Uemura N, Kaminishi M, Tajiri H. Current status of esophageal endoscopy including the evaluation of smoking and alcohol consumption in Japan: an analysis based on the Japan endoscopy database. *Esophagus*. 2018 Dec 5. [Epub ahead of print]
- Honda M, Kumamaru H, Etoh T, [Miyata H](#), Yamashita Y, Yoshida K, Koderu Y, Kakeji Y, Inomata M, Konno H, Seto Y, Kitano S, Watanabe M, Hiki N. Surgical risk and benefits of laparoscopic surgery for elderly patients with gastric cancer: a multicenter prospective cohort study. *Gastric Cancer*. 2018 Dec 11. [Epub ahead of print]
- Iwatsuki M, Yamamoto H, [Miyata H](#), Kakeji Y, Yoshida K, Konno H, Seto Y, Baba H. Effect of hospital and surgeon volume on postoperative outcomes after distal gastrectomy for gastric cancer based on data from 145,523 Japanese patients collected from a nationwide web-based data entry system. *Gastric Cancer*. 2019 Jan; 22(1): 190-201.
- Ohira S, [Miyata H](#), Yamazaki S, Numata S, Motomura N, Takamoto S, Yaku H. Deep sternal wound infection after bilateral internal thoracic artery grafting: Insights from a Japanese national database. *J Thorac Cardiovasc Surg*. 2019 Jan; 157(1): 166-173.e1.
- Tomotaki A, Kumamaru H, Hashimoto H, Takahashi A, Ono M, Iwanaka T, [Miyata H](#). Evaluating the quality of data from the Japanese National Clinical Database 2011 via a comparison with regional government report data and medical charts. *Surg Today*. 2019 Jan; 49(1): 65-71.
- Sakamoto H, [Lee S](#), [Ishizuka A](#), Hinoshita E, Hori H, Ishibashi N, Komada K, Norizuki M, Katsuma Y, Akashi H, [Shibuya K](#). Challenges and opportunities for eliminating tuberculosis – leveraging political momentum of the UN High-Level Meeting on Tuberculosis. *BMC Public Health*. 2019 Jan 16;19(1):76.

Kodera Y, Yoshida K, Kumamaru H, Kakeji Y, Hiki N, Etoh T, Honda M, Miyata H, Yamashita Y, Seto Y, Kitano S, Konno H. Introducing laparoscopic total gastrectomy for gastric cancer in general practice: a retrospective cohort study based on a nationwide registry database in Japan. *Gastric Cancer*. 2019 Jan; 22(1): 202-213.

Imamura M, Hirata K, Unno M, Kamiya K, Gotoh M, Konno H, Shibata A, Sugihara K, Takahashi A, Nishiyama M, Hakamada K, Fukui T, Furukawa T, Mizushima T, Mizuma M, Miyata H, Mori M, Takemasa I, Mizuguchi T, Fujiwara T. Current status of projects for developing cancer-related clinical practice guidelines in Japan and recommendations for the future. *Int J Clin Oncol*. 2019 Feb; 24(2): 189-195.

Endo S, Ikeda N, Kondo T, Nakajima J, Kondo H, Shimada Y, Sato M, Toyooka S, Okada Y, Sato Y, Yoshino I, Okada M, Okumura M, Chida M, Fukuchi E, Miyata H. Risk assessments for broncho-pleural fistula and respiratory failure after lung cancer surgery by National Clinical Database Japan. *Gen Thorac Cardiovasc Surg*. 2019 Mar; 67(3):297-305.

Nomura S, Matsuzaki Y, Sato Y, Takasaki J, Sonoda Y, Shimmura H, Kodama Y. A comparative survival analysis between evacuees and non-evacuees among dialysis patients: lessons learned from Japan's 2011 Fukushima nuclear incident. Accepted in *Disaster Med Public Health Prep*.

Nishikawa Y, Tsubokura M, Takahashi Y, Nomura S, Ozaki A, Fujii Y, Kimura Y, Morita T, Sawano T, Oikawa T, Nakayama T. Change of access to emergency care in a repopulated village after the 2011 Fukushima nuclear disaster: A retrospective observational study. Accepted in *BMJ Open*.

Nomura S#, Sakamoto S#, Tsugawa Y, Iwanaga N, Kuchiki S, Kawachi I, Shibuya K. Perspectives of Japan's Diet members regarding the proposed smoke-free legislation. Accepted in *Tobacco Control*. [Blogs] #Authors contributed equally to this work and share co-first authorship

Amimo F, Moon T, Magit A, Lambert B, Sacarlal J, Nomura S. Trends in comparative efficacy and safety of malaria control interventions for maternal and child health outcomes in Africa: a study protocol for a Bayesian network meta-regression exploring the effect of HIV and malaria endemicity spectrum. Accepted in *BMJ Open*.

原著論文 (和文)

李祥任、安藤亥二郎 ベトナムにおける薬剤耐性菌の現状とその対策～地球規模課題対応酷使赤学技術協力プログラム (SATREPS) を通して～、グローバルヘルスの重要課題～。日越共同の科学技術協力を推進するための政府開発援助 (ODA) の視点～、日本防菌防黴学会誌、Vol.46, No.4(2018)

著書・総説・その他

藤田卓仙「第11章 ICTの活用が拓く新しい薬価制度」小黒一正・菅原琢磨編『薬価の経済学』日本経済新聞社、2018年7月、pp.227-250.

勝間靖編著『持続可能な社会をめざして～私のSDGsへの取組み』国際書院、2018年9月(217). [ISBN: 978-4-87791-292-5]

小賀野晶一・成本迅・藤田卓仙編『公私で支える高齢者の地域生活第一巻「認知症と民法」』勁草書房、2018年11月。

勝間靖「5章 保健医療：グローバル・ヘルス・ガバナンス」国際開発学会編『国際開発学事典』丸善出版、2018年11月、pp.144-145 (613). [ISBN: 978-4-621-30340-5]

勝間靖「10章 包摂性：包摂的な開発」国際開発学会編『国際開発学事典』丸善出版、2018年11月、pp.300-301 (613). [ISBN: 978-4-621-30340-5]

高橋基樹・勝間靖・山形辰史「18章 2030年以降の国際開発：国際開発の未来～人間の顔をしたグローバル化のために」国際開発学会編『国際開発学事典』丸善出版、2018年11月、pp.532-533 (613). [ISBN: 978-4-621-30340-5]

勝間靖「18章 2030年以降の国際開発：国連の役割」国際開発学会編『国際開発学事典』丸善出版、2018年11月、pp.538-539 (613). [ISBN: 978-4-621-30340-5]

勝間靖「18章 2030年以降の国際開発：保健開発の未来」国際開発学会編『国際開発学事典』丸善出版、2018年11月、pp.550-551 (613). [ISBN: 978-4-621-30340-5]

山田順子・勝間靖「ASEANにおける相互承認協定(MRA)の動向と看護人材」国立国際医療研究センター国際医療協力局編『カンボジア・ラオス・ベトナム・ミャンマーにおける看護人材開発制度とASEANにおける相互認証協定(MRA)』(テクニカルレポート11号)、2018年12月、pp.6-10 (49). [ISBN: 978-4-909675-55-2]



国立研究開発法人 国立国際医療研究センター
国際医療協力局
グローバルヘルス政策研究センター (iGHP)

〒162-8566 東京都新宿区戸山 1-21-1
TEL : 03-6228-1562 / FAX : 03-6228-0564
EMAIL : iGHP-Admin@it.ncgm.go.jp
www.ighp.ncgm.go.jp

 ncgm.ighp  lghpNcgm

